

新図書館等複合施設の活用をみんなで考えるワークショップ（全 5 回）

<第 3 回> 「さまざまな学びと交流」 実施記録

1 開催日時：2024 年 11 月 9 日（土） 14：00～16：00

2 開催場所：妙高市役所 1 階 コラボホール

3 参加者：26 名

4 スケジュール

時間	内容
14：00 ～ 14：35	アドバイザーのレクチャー 「複合施設の活用を考える～都城図書館、さまざまな学びと交流～」
14：35 ～ 16：05	グループワーク ①ワークショップの進め方 ②個人ワーク・ペアワーク・グループワーク ③発表・アドバイザーコメント

5 ワークショップの内容

(1) アドバイザーのレクチャー「複合施設の活用を考える～都城図書館、さまざまな学びと交流～」

（都城市立図書館 館長 井上康志氏）

→資料①参照

- ・都城プロジェクトの背景や都城市の概要、広場や子育て支援施設、図書館などがある複合施設「まるまる（Mallmall）」の概要、運営体制の紹介
- ・コンセプトは「ひとりひとりが『だいじなもの』をみつけていくために」。この施設に来ることでも何か気づきがある。それを行動に移すのはなかなか難しい。行動に移すのが 5 年経ってからの企画もある。
- ・施設の活用方法などは固まっているわけではなく未完成。市民から提案をもらって、できることをどんどんやっていく。運営が勝手にイベントをすることはあまりなく、基本的に市民から話を聞いて実施。市民が施設を育てており、今も成長途中である。
- ・中心市街地の活性化の取組みとして動き出した経緯があり、図書館の枠をこえて取り組む。そのため月 1 回調整会議がある。来られた方から、「こんなことをしてほしい」という話が図書館に寄せられる。
- ・施設でのいろいろな活動事例の紹介
トークイベント／演奏会／ボードゲーム／学校の遠足場所としての来訪
さまざまな連携（祭や民俗芸能／美術館／地元の本屋／演劇ホール／地元の飲食店主など）
市民が図書館に置く本を選書する仕組み
さまざまな高校生企画（ファッションショー／高校生によるまちなかの活性化をテーマにした発表など）
不登校の子たちによる施設活用／まちなか記憶展／ティーンズエリアやおべんとうコーナー 他
- ・プロジェクトスタジオでは、施設利用者が自由に出入りし、壁にコメントが書けるといった取組みを行っている。

(2) グループワーク

●グループワークなどの進め方等について説明（ファシリテーター）

→資料②③参照

- ・ファシリテーター（図書館パートナーズ 小田垣宏和氏）がグループワーク等の進行を担当
- ・グループワーク等の進め方について説明（各自が仮想の利用者像（新施設に来てほしい人＝ペルソナ）を想定し、その利用者像に向けたサービスや取組みを考え、グループやペアで意見交換しながら「ペルソナシート」「私たちの計画（企画シート）」に記入し発表）

●個人ワーク・ペアワーク・グループワーク・発表・アドバイザーコメント

- ①くじ引きでグループに分かれ、まずは自己紹介（「前半の感想、気づき」「最近、うれしかったこと、または、新しく始めたこと」「新施設でやりたいこと」）
- ②仮想の利用者像（ペルソナ）の名前や年齢、住んでいるところ、職業、趣味などを「ペルソナシート」に記入し、2人1組になって共有・意見交換
- ③設定した利用者像（ペルソナ）の1日の生活、うれしいこと・うれしいことを増やす方法、いやなこと・いやなことを減らす方法、新施設でできるサービス・新アイデアを検討・記入のうえ、グループで発表・意見交換
- ④設定した利用者像（ペルソナ）に向けたサービスや取組みを「私たちの計画（企画シート）」に記入し発表、さいごにアドバイザーよりコメント

内容は以下のとおり

【「ペルソナシート」で書かれたアイデアとそれぞれが考えた計画（企画）名・発表概要】

「ペルソナシート」で書かれたアイデア	それぞれが考えた計画（企画）名・発表概要
●はね馬アリーナ+新施設での連携 ●嫌いな「勉強」→好きな科目・興味を拾い上げる、見出す企画展示→妙高にはない世界、自分では行けない所	「はね馬アリーナサークルとの連携」 ●はね馬アリーナのサークルとか、市民活動の中で連携できる図書館企画を考えた。 ●はね馬アリーナを利用している人たちが図書館で運動に関するレクチャーをすとか、新施設を拠点に別のところでも活動していくようなことができればと思った。
●実用書・小説など興味を引く本の紹介（目にとまる様に） ●友達と気軽に立ち寄って話しが出来る場所の提供 ●身体を軽く動かせるコーナーやイベントの提供 ●ポップ	「ぷらっと体力チェック」 ●市民の健康づくりを図書館でできればいい。 ●図書館に来たついでに、親子で簡単に体力チェックをして楽しんでもらう。親子のコミュニケーションをとってもらいたい。 ●成人の方なら、定期的に通うことで自分の体力を定期的にチェックしていけるような機会になればいい。
●気軽に集まれる場所（スペース）をつくる ●情報を見つけやすい仕組み（表示・分類） ●知らない人同士でも交流、会話できる仕掛け	「ふらっと行って、何かを見つけられる場所」 ●目的もなく、ちよつとのぞいてみようかなと思ってずっと居られるような入りやすい場所。 ●本を読んだり、何か展示とか見ているときに、知らない人同士でも「これに興味あるんですか」ということで、気楽に話ができるよう

	な場所であつたらいい。 ●何かを調べたい、知りたいとか、目的をもって来ることもあるが、面白そうとか、これをもっと知りたいとか、こういうことをやってみたい、ということが見つけれられる場所になつたらいい。
●学習スペースの提供 ●効率的な学習方法に関する講演会 ●検索システムの充実 ●高校生同士、さらには大人も含めた人たちが集まれるイベントの開催 ●妙高市のいろいろなすばらしい所の紹介 ●新しい食べものが試食できる機会 ●コンサートの開催 ●分野を限った本の紹介	「イベントを中心とした市民が集まれる機会の提供」 ●テーマを何にするかが大事であるが、テーマの設定においては多くの年代層を巻き込む。例えば高校生が中心になってテーマを選んでもらってもいいし、高校生といろいろな年代の方が一緒になってテーマを選ぶのもいい。 ●そういうイベントをして、いろんな年代の人が交流の場を広げる。イベントが終わったらその感想等、やったことを、できたらまとめて、それを広報して、さらにつなげる、人がいっぱい集まってくれるような機会が提供できたらいい。多くの年代の人が一緒になれるイベントを多く開催して楽しい場所に来たらと思う。
●小中高校生の居場所作り（学校に行きたくない日は誰にでもある。家に帰る前に心のモヤモヤをちょっと聞いてほしい） そんな時にお茶を飲みながら話を聞く、そんな人に私はなりたいです	「小・中・高校生 みんなの居場所」 ●学校に行きたくない日が誰にでもある。学校の帰りに、家に着くまでに、ふらっと寄れる場所があるといい。そこで、信頼のできる大人に話を聞いてもらって、少しでも心のモヤモヤの整理がつけられるようになるといい。心の安全秘密基地というか、そういう場所があつたらいいと思う。 ●子どもの心をひとりぼっちにしないことが目的である。
●地域の人の健康に役立つ食事の提供 ●趣味の展示をする広場 ●こけしの展示販売 ●おまつりの開催	「みんなでおいしく健康になろう」 ●1 階の広場みたいなところもあるし、カフェも併設するということで、その場所をときどき使って、妙高市のおいしい野菜、お米なんかを使った料理を市民の方に広く募集しておいしい料理を提供する。 ●なかなか食べる機会がない郷土料理を食べる日をつくったり、『ぐりとぐら』の本に出てくるパンケーキなど、絵本で見えるような食べ物を食べれるイベントとか、何か楽しい食にまつわるイベントをする。 ●ふだん忙しくてちゃんと食事がとれない人とか、一人暮らしで食事がマンネリ化してる人たちの食事が少しでも楽しくなればいいのではないかな。
●妙高市の特産の展示等 ●老人会の出品 ●市民の「いこいの場づくり」	「妙高の「ニワ」づくり 市民のにわづくり」 ●市内に家族でくつろげる自然の場所がない。それをここでつくるといいのではないかな。 ●特に子どもから高齢者までが一つになって集う場所がない。自然にマッチをした、建物づくりができなければならない。そこで子どもから高齢者が、一緒に過ごして、いろんなイベントができる場所が必要かなと思う。
●パチンコで勝つ為のテクニック講座を有料で行う！！ ●プランター農業の実践講座	「あなたの新しい一歩を後押しする〇〇講座集」 ●図書館でいろんな学びを得られると皆さん発信したくなるだろうなと思うので、得た知識を使って発信をする講座などがいい。市民

●農産加工品を作る為の実践セミナー開催 ●農作物の直売所開設セミナーを行う！！ 作り方、陳列方法 ●カラオケ教室	1人1人が自分のスキルや趣味を活かして、講師あるいは学生となってセミナーを開設したらどうか。 ●講師となるためには、図書館で勉強もするし、説明の資料をつかって、あるいは宣伝もする、ということで必然的に図書館に人が集って、たくさんあるセミナーの中から自分にあったセミナーを選べたりするのではないかな。 ●多目的ルームもあるので、活用の仕方がいろいろある。
●開館後の時間を使い、少人数での利用申込みを受けつける ●カフェも使えると良いかも	「だれでも図書館」 ●考えた企画は「だれでも（いつでも）図書館」というもの。利用する方の中には、開館時間に利用できる方もいるし、例えば障害をもつお子さんをお持ちの方だと、賑わっている時間には行きにくいという人もいると思う。 ●ゆっくりグループで見たいとか、そういう利用を許可してもらって、頻繁には難しいが閉館している時間などに別に申込みをして、イベント的でもいいが、多くの人が入らない時間に図書館を利用できる特別開館みたいな感じはどうか。
●高齢者のたまり場機会をもうける ●世代間の交流事業をもうける ●PC・スマホを使うことが出来る機会を ●交通アクセスを良くして下さい ●運動指導と方法を教えて下さい	「高齢者も利用することが出来る図書館」 ●多くの高齢者の方が利用できるような図書館であってほしい。 お父さんもお母さんもお勤め、子どもたちも学校とか職場に行っているために、高齢者が1日1人ぼっちでテレビを見て過ごすというようなこともある。また、隣近所にも、友達がだんだん少なくなってきた。 ●歩いて行ける人たちはいいが、交通の便だとかいろいろ問題がある。高齢者の方も利用できる、しやすい、いろんな企画ができるとうれしい。
<スキー> ●スキーに関わる映画、動画の映写会 ●オリンピック、国体参加選手のお話 ●スキーにかかわる本の紹介 <かかわり> ●ボードゲーム大会 ●もの作り企画 <移動手段> ●無料送迎車	「キッズアクションプロジェクト」 ●小学生を中心にワークショップを開いてやりたいことを出しあう。 ●例えば、市内にオリンピック選手がいっぱいいるのでオリンピック選手と仲良くなろうとか、俳句づくりをするキッズプレバト、身近のものをを使ったアート作品づくりということでキッズアーティストということである。 ●市内の子どもたちが集まる、気軽に集える。そのために高原や妙高の子どもも来られるように無料送迎車が必要になってくるかなと思う。
●各自が表現した物を掲示するスペースを作る ●意見や要望を書いて貼ってもよい場所を常時設置する ●新しいアイデアを後押しするメンバーを募る ●SNS等で発信してより多くの人と交流出来るようにする ●妙高のイチオシスナップ 私のオシポイント	「みんなが「あらい〜わ」な図書館」 ●誰もがいろんな形で自分たちのアイデアを出せる、そしてそれに対して安心してサポートしてもらえる。 ●老若男女、外国の人、障害のあるお子さんとか、転勤してきたとか、それぞれの事情があっても、ここにいれば「あらい〜わ」を見つかけられるようなイベントとか、安らげる場所になってほしい。

を見てもらう、見せ合う、感想を交換する ●他地域の方の感想や意見交換会	
●図書館の使い方（欲しい本をどうやって探すのか、借りるにはどうすれば良いか）や足が不自由、車がないペルソナならどうやって行けば良いか ●老人向け読書交流会がないか ●福祉施設に図書館バスが来てくれないか	「（新図書館名称）ツアーガイド」 ●年 4 回くらい、この新図書館の名称、図書館はどういうものなのか、図書館の検索機能の使い方とか、どのようなところにどんな本があるか、などを知らせるツアーをやる。 ●目的や目標は、新図書館のことを知ってもらう、図書館の機能に慣れていない人に、図書館の上手な使い方、図書館の利用方法などを知ってもらうこと。
●中高生対象のダンス大会（妙高市大会、上越市大会） ●ダンススクール ●ダンスレッスン講習会 ●ダンスビデオネット視聴（大画面で）	「新図書館でダンス大会をしよう！！」 ●静かなところで動きのあることをやるのはおもしろいのではないのかなという発想からである。 ●目的は、まちなかの活性化、にぎわいづくりのため、地元新井高校生や中学生を応援、支援する場として、新図書館でダンス大会をしたらどうかということ。 ●ダンス講習会、それからダンス大会の 2 部構成にして、年 4 回、春夏秋冬 1 回ずつ、時間は 4 時間前後を考えた。
●バイト・副業情報 ●複合施設まで歩いていく ●畑づくりの勉強会	「バイト 副業 ボランティア 仕事紹介」 ●ボランティアから、バイト・副業までの仕事紹介を考えた。無償から有償まで、あらゆるニーズを紹介し、マッチングさせる。 ●目的は来客・誘客。図書館等複合施設に一番遠い人たちに対しても、「ちょっと行ってみるか」みたいな話題性と、行ってみた結果、新しい何かが見つかり行動の意味が持てる。 ●詳しいマッチングに関しては、当事者どうしに任せるし、なおかつ、それをアナログでやる。いろんな人材バンクの登録制度をやっているが、載せるだけで、それ以上でもそれ以下でもないで、あえてアナログでやるのが大事だと思う。
●筋トレなどトレーニング本の展示⇒各種テーマ本コーナー作成 ●筋トレ講座 ●ボルダリング用壁の設置⇒指導員の設置 ●学習指導員の配置や講座の開催 ●近隣のバイト情報の掲示 ●フリースクール	「フリースクール設置」 ●私は学習関連の講座というところから、皆さんに意見いただいて、フリースクールの設置というのを考えた。他の学生さんが学校に行っている時間帯を利用して、なんらかの理由で不登校になっている子どもたちの居場所づくりをしたい。 ●公共施設であるので、できれば登校の時間としてカウントされるような仕組みをつくってほしい。
●カフェ ●ライブ・クラブハウス ●イルミネーション ●有名人を呼ぶ ●有名店 ●ファッションショー	「高校生女子が喜ぶ図書館」 ●高校生の女子をターゲットにして、高校生にうける仕掛けを行う。それによって、まずは高校生の女子にリピーターになってもらい、おそらく SNS をやっているの、そこで情報発信してもらう。 ●そこからいろんな人から情報を受け取って、「私も行きたい」とかそんなことで関心を持ってもらってまた図書館に来てもらう。どんどんそうやって輪が広がっていけばいい。

●子どもを預かる人向けの勉強会 ●専門書籍などの充実 ●相談窓口の設置 ●市外から来た方への勉強会（市内にある便利なサービス、魅力など） ●起業、副業・復職セミナー ●趣味の講座 ●行政を学ぶ	「子育てしながらスキルを磨くパワーアップ企画」 ●子育て関連施設があるので、子育て中のママさんと、ちびっこたちに向けた企画ができればいいと考えた。 ●1 点目はママ友・パパ友とつながるイベント。お子さんを預けて、子ども同士交流をしながら、親は親同士で交流しながら意見交換して、子育てのやり方とか楽しさを共有するようなイベントができるといい。 ●子育て中の若いお母さんたちは、子育てがひと段落すると復職などされると思う。復職に向けた、もう一度がんばるかみたいな感じの、復職支援センターみたいなもの、お子さんを預けながら、学ぶ機会があるような企画があるといい。
●家族で参加するイベント ●同じ趣味の人があつまる企画 ●多様な人が交流する企画の運営に参加する ●コミュニケーション能力をみがく講演や本をみつける（体験）	「やりたい事って何？」 ●若い人たち、一度リタイアした高齢者も、仕事も含めて活動をマッチングできる場所、また、子どもを預けられるから、若いお母さんたちが、もっと自分を輝かせることができるはずだということに気づいてもらう、自分らしい生き方を築いてもらうような拠点になる。 ●単なる図書館ではなく、必ず誰かの役に立ってみようというコンセプトでやっていただけるとありがたいと思って期待したい。
●ママ友、パパ友 親食どう 交流会 ●子育て勉強会 ●復職スキルアップセミナー	「子育てママさん応援企画」 ●子育て中でもやりたいことがやれる環境を自らつくって、学んで楽しんで自身のスキルアップと同時に人生を楽しむことを目的とする。楽しんでいる親の背中を見て育つ子どもということで、元気が出るような企画をできるといい。 ●安心して子育てをしながら、日々を充実させて、仕事などにも通じる学びも選べる企画ということで、安心して子育てするには安心して預けなければいけないから、子どもを預かる側の勉強会をやったり、勉強するためにいろんな分野の専門書などの充実をしていただけるといい。 ●複合施設、静と動、分かれていると思うのでその辺をうまく使いながら、面白い企画ができればいい。
●高原への旅行がよかった その時新施設でどういったサービスができてペルソナにささるか 1. 旅行をさらに楽しむ情報（何でも）、そして妙高らしい“おしゃれ”さ 2. 交通アクセスのよさ バス、電車など 3. “リセット”できる居心地のよさ 知らない人でも受け入れる雰囲気	「“リッチ”タクシーネットワーク」 ●高原と新井をリッチなタクシーがつなぐ「“リッチ”タクシーネットワーク」という企画を考えた。 ●世界中から高原のほうに観光客は来られていて、図書館が観光地に対する情報を持っているので、そこをいかにつなぐかは重要。観光で来ているから移動そのものが楽しい体験になるような、何かそういったネットワークが組めると、高原だけでなく新井のほうまでも広がるような、何か楽しい、観光客にとってもいいような図書館になるのではないかな。
●出会いイベント ●ビジネス交流会 ●お茶会	「こだわり料理の試食会」 (発表なし)

●お店の PR 料理など ●起業家交流会 ●スポーツバー（お酒も飲めるパブリックビューイングの開催）	
●女子高生向け 先生におこられない、化粧講座 ●美しくやせるヨガ、ピラティス講座 ●NBA インターハイ鑑賞会	「高校生向け 先生に怒られない化粧講座」 （発表なし）

【アドバイザーコメント概要】

- 来れない人たちはなぜ来れないのか。来るためにはどうしたいのか。居場所になるには。一人で座る、誰かと話す、新しいことを人に伝える、やってみる場所も居場所になる。皆さん、そういうことをめざしている。
- 「ウェルビーイング」は「居場所」。自分が健康である、楽しいというもあるが、居心地がいい、変化を楽しむことなども入っている。
- 住んでいる方・利用する方たちが、そういう気持ちで施設に関わってもらえると変わる。どこにでもある図書館ではない施設になってほしい。

【その他、ワークショップで出された「新施設でやりたいこと」】

- 市民活動団体が自由に書類などを広げてディスカッション
- 音楽をやりたい
- 小中高生、学校に行きづらい子の居場所づくり
- 模型展 自分で図面を書いて組み立てたい！！
- 市民交流、いろんな人（いろいろな年齢・世代、地域、他県など）との交流、みんなの憩いの場所
- e スポーツ大会
- 句会
- 中高生が集まりにぎわいのある街中になれるような居場所
- 図書館検索機や使い方を教える会、ツアー
- コンサート
- マルシェ
- 対話型読書会（VTS 含む）
- レファレンスサービスを活用して調査研究など
- 海外とつなぐ 視野を広げる
- 子どもが楽しめるイベント
- 高校生や大学生の交流活動の場
- 1F で音楽イベント（オープニング）
- VR を体験したい

- 子ども、高校生が企画したイベントを開催したい
- カフェでゆっくり過ごしたい
- カフェのメニューを考えたい など

第3回ワークショップの様子



▲アドバイザーによる講演



▲ペアで「ペルソナシート」についての情報交換



▲グループ内で「ペルソナシート」の発表



▲各自が考えた計画（企画）の発表



▲発表内容についてアドバイザーからコメント